

Letter from Tsuruno Meguro to Fumio Fred and Yoneko Takano, [-August 14], 1942

二三男さん米子さんへ

毎日暑う御座いますね。先日お便り有難う御座いました。はが悪くてつらかったでしょうね。下のはを二本ぬいてもらいなさいよ。私達は皆たっしやで居りますよ。当キャンプもワイオミングへ行くようにきまりました。此のサンデーには三百人行くようになりました。私等は其の次たぶん十五日ごろと思います。又荷造りで少し忙しいですよ。毎夜パーティーがありますよ。ボンオドリ、日本のオドリ、なかなかニギヤカですよ。ベンとマサ子は二ナイト、チケン食べましたとか。また昔にかえり寒い所へ行きます。いつ平和になるかわかりません。からださえ無事で居りましたなら、また会う事ができますから。からだを大切にいなさいよ。あなた達もどこへ移されるかわかりませんね。

庄司さんがお手紙下さいました。ニーメキシコからかられて無事で居られるそうです。パーカダムの方もまだまだはいる所があるそうです。私のヤードの花もさき初めました。ある所はキーカンポー、野菜を造って大きくなって居ります。おいて行くのがおいしいけれども仕方ありませんね。ベンとマサ子はあすになるかどうかわかりません。またたつ時に知らせます。あきちゃん男の子産みなすったそうで、ほんとうに御目出たかったね。あなた達もおぢさん、おばさんに、なられてうれしいでしょう。それでは、御からだを大切に仲よく。一日も早く平和になりますよう祈りましょう。さようなら。

[Written at Pomona Assembly Center]